

中学校 特別活動 部会

部会長名 香春町立香春中学校 校長 松内 隆泰
実践者名 福智町立金田中学校 主幹教諭 荒尾 和幸

1 研究主題

共感と秩序ある集団の育成を目指した話し合い活動の取組
～生徒指導の機能を生かした話し合い活動を通して～

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

現代社会は、少子化・高齢化の進展による社会全体の活力の低下や、グローバル化の進展による我が国の国際的な存在感の低下、地球規模の課題の対応など、我が国を取り巻く環境は厳しさを増している。今後の社会の方向性として「自立」「協働」「創造」など三つの理念の実現に向けた生涯学習社会を構築していく必要性に迫られている。また、学校には、学習意欲の喚起、いじめ等の未然防止、道徳教育の充実等様々な教育課題の対応を求められている。

これらの時代に必要とされる資質・能力の育成や学校教育の諸課題への対応に向けては、望ましい集団活動を通して、集団生活の一員としてより良い生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的態度を育てるとともに、自己の生き方についての考え方を深め、自己を生かす能力を養おうとする特別活動が果たす役割は大きいと考える。特に、互いの意見の違いを超え、望ましい人間関係につなが話し合い活動は、「自主的・実践的態度」「自己成長の自覚や向上心」「共感と秩序ある集団」を育成するために有効であると考えられる。

(2) 学校の状況から

校訓：真実 正義 勤労

学校教育目標：将来を展望し、切り開くために現在を努力する生徒の育成

研究主題：生徒の集中力を高める見通しを持たせた授業方法の工夫改善

～特別支援教育の手法を取り入れた授業づくり～

本校の校訓、学校教育目標ともに、特別活動の目標が包含されており、特別活動を充実させることで学校教育目標の達成に近づくことができると言える。また、研究主題に対する仮説には、全教科において、「生徒指導の三機能を取り入れ」とともに、「言語活動の充実を図るための具体策」を講じることにより、確かな学力を身に付けた生徒の育成につながるとしている。特別活動において、生徒主体の話し合い活動に積極的に取り組ませることにより、主題達成に近づくと考える。

(3) 生徒の実態から

本学級の生徒は明るく活発な生徒が多い。与えられた仕事や役割には責任を持って行動する生徒がいる一方で、自分の意見を述べたり、集団で意見をまとめたり、他と協力して何かを成し遂げようとするのを苦手とする生徒も見られる。4月当

初の学級目標に関する話し合い活動は教師主導で行い、5月の体育会の目標及び選手決めや6月の生徒総会に向けての話し合い活動は、専門委員会の係を中心に話し合いを進めることができた。今年1年間を学級の生徒一人ひとりが「目標を持って毎日を過ごしてほしい」という考えから「初志貫徹」を学級目標に設定した。この学級目標を基に、個人で掲げた目標に向かって取り組んでいる生徒は多数いるが、自ら行動を選択したり、協力することができない生徒も多々見られる。これは、生徒同士がお互いの間違いを指摘したりサポートしたりするような関係作りや雰囲気作りが十分にできていないためと考えられる。そこで、本活動に取り組むことは、最上級生になるビジョンを集団が共有し、学級への所属感や連帯感を深めさせいくことに有効である。さらに、この話し合い活動を通して、よりよい集団の在り方や高め方を考えさせ、それぞれの意見をもとに全員でできる行動目標が決定できるように指導していきたい。

3 主題の意味

(1) 「共感と秩序ある集団の育成」とは

学習指導要領における目標及び内容2-(1)アにあるように、集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだすために、個々の生徒が自立した主体として活動することである。この取り組みにより学級・学校文化の基盤にある望ましい集団活動を実現し、自己を生かす能力の育成が図られると考える。

(2) 「生徒指導の機能を生かした話し合い活動」とは

学級活動での話し合い活動に取り組むことにより、生徒が学校や学級の一員として、それぞれを尊重し合いながら共感的な人間関係を育て、意見を出し合い自己有用感や自己存在感を高めつつ、集団としての決定や自己決定を行うことである。

4 研究の目標

学校生活をよりよくするための課題と解決方法を、生徒指導の機能を生かした学級活動の話し合い活動により、学級の合意形成を図り、具体的な実践を行う取組を行う。

5 研究の仮説

学級活動において、生徒指導の機能を生かした学級活動の話し合い活動を行えば、望ましい集団生活をより良く形成し、自己実現を図ろうとする態度を培うことができるであろう。

6 研究の計画

(1) 議題 最上級生になるために学級で取り組む行動目標を決めよう

(2) 議題選定までの経過

① 議題選定の理由と議題が決定するまでの経過

本議題は、「学級の諸問題に関するアンケート」から得られた生徒の考えや思いに基づいて設定したものである。9月に実施したアンケートの中の「学校生活は

楽しく過ごせていますか」という質問に対して、25名中18名の生徒が「楽しく過ごせている」と回答し、7名の生徒が「だいたい、楽しく過ごせている」と回答している。「4月に立てた個人目標は継続して実行できているか」という質問に対して、「できている」と回答した生徒は25名中6名だった。このことから目標に向かって継続して努力する生徒が少ないことが分かる。また、「今の2年生の状態で3年生になって最上級生として学校を引っ張っていけるか」という質問に対して7名が「そう思う」と回答し、18名の生徒が「思わない、どちらでもない」と回答している。具体的には「団結力がまだまだ足りていないから」や「授業と休み時間の切り替えが悪い、集中力が低いから」などの意見があった。以上のことから、学校生活は一人ひとりが積極的に頑張っているが、最上級生になる準備や心構えはまだまだ集団として育っていないことが分かる。

その後、話し合い委員会を開いたところ、「今年以上に学校行事を成功させたい」「今の3年生に負けない3年生になりたい」などという意見が出されたため、3年生になるための残された半年間に、学級みんなで取り組めることを探そうという理由から、学級会を開いて行動目標を全員で話し合うことを決定し、本議題案が決まった。

(3) 指導にあたって

- ① 事前の活動では、まず、学級の課題を認識して議題を決定させるために、9月末に行ったアンケートの結果を掲示する。さらに、朝の会で議題の提案を行い、「学級の問題解決にふさわしい議題であること」、「学級全員に関係のあること」を議題の条件として共通理解を図る。
- ② 本時では、よりよい集団として行動していけるよう行動目標を決定させる。まず、個人でクラスの行動目標を考えさせ、目標となぜそう思うのかという理由もつけられるように指導する。話し合いの柱1では、個人の意見を班で持ち寄り、提案する中で、班で一つの目標を決めさせる。班会議では「みんなでできるか」「最上級生として必要か」「継続できるか」を話し合いのポイントとして示し、目標を選択する基準とする。班ごとに出された目標を基に、一人ひとりが自己決定し、自分のマグネットを班ごとの目標に張り、行動目標の「ベース」を決める。話し合いの柱2では、「ベース」について具体的に話し合っていき、学級全体で一つの行動目標を決定する。
- ③ 事後の活動では、話し合いでの決定事項を、学級掲示し、毎日、朝の会で確認し、行動していく。そして、全員が決定事項の行動目標に意欲的に取り組んでいるか経過を観察する。定期的に自己評価で振り返りを行い、話し合いを持って深めさせていく。

(4) 目標

- 学級や学校の生活の充実と向上にかかわる問題に関心を持ち、他の生徒と協力して、自主的、自律的に集団活動に取り組もうとしている。
(集団活動や生活への関心・意欲・態度)
- 学級や学校の一員としての自己の役割と責任を自覚し、他の生徒の意見を尊重

しながら、集団におけるよりよい生活づくりなどについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。

(集団や社会の一員としての思考・判断・実践)

- 充実した集団生活を築くことの意義や、学級や学校の生活づくりへの参画の仕方、学級集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方などについて理解している。

(集団活動や生活についての知識・理解)

(5) 指導計画

	生徒の活動	指導上の留意点	日時
事前の活動	1 学級の諸問題についてのアンケートをとる。		9月28日 帰りの会
	2 アンケート結果を掲示し、学級全員に知らせる。		10月2日 帰りの会
	3 中央委員、班長、教師で議題の決定、企画を行う。	○ 提案理由やめあてを決定させるために、学級目標を意識させて作成させる。	10月7日 放課後
	4 朝の会で議題の発表と確認を行う。	○ 「学級の問題解決にふさわしい議題であること」、「学級全員に関係のあること」を議題の条件として確認させる。	10月11日 朝の会
	5 中央委員、進行役と学級会の事前打ち合わせ会を行う。	○ 話し合いが円滑に進められるように意見の折り合いの付け方や、進行の仕方を確認する。	10月13日 放課後
本時	6 学級会を行う。 (1) 個人で学級の行動目標を考える。 (2) 個人で考えたことを班ごとにまとめ、発表する。 (3) 班の考えを一つにまとめ行動目標を決める。	○ 学級目標を意識して、学級の行動目標を考えさせる。 ○ 話し合い活動のポイントに沿って円滑に進めさせる。 ○ 少数意見も尊重させながらより良い行動目標になるよう指導・助言する。	10月17日 3校時
	7 行動目標を学級掲示する。	○ 生徒会文化部に掲示物を作成させる。	10月18日 放課後
	8 定期的に振り返りアンケートを記入する。	○ 帰りの会等を利用し行動目標が達成できているかどうか確認させ、改善点はないか考えさせる。	10月31日 帰りの会

7 本時

平成29年10月17日(火) 第3校時 於 2年2組教室

(1) ねらい

学級目標を意識し、よりよい最上級生になるために、学級で取り組む行動目標を決定することができる。

(2) 本時の活動展開計画

第7回 学級会の計画		
<p>【議 題】 「最上級生になるために学級で取り組む行動目標を決めよう」</p> <p>【提案理由】 アンケート結果をふまえ、「今年以上に学校行事を成功させたい」「今の3年生に負けない3年生になりたい」という気持ちを持っている生徒が多く、学級みんなで取り組めることを探そうという理由から行動目標をみんなで話合うことを決定した。</p> <p>【めあて】 最上級生になるために今必要なことを考え、話合い、行動目標を決めよう。</p> <p>【話合いの柱】 ①個人の意見を班で持ち寄り、班で一つの行動目標を決めさせる。 ②班からでた行動目標について具体的に話合っていき、一つの行動目標を決定する。</p> <p>【話合いのポイント】 ① みんなでできるか ② 最上級生として必要か ③ 継続できるか</p> <p>【役 割】 司会 黒板書記 ノート書記</p>		
主の活動内容	指導上の留意点	○評価規準(評価方法)
1 始めの言葉	○ 話合いをスムーズに進行させるために、司会グループには「話合いの進め方プリント」を用意し、参考にしながら進行してよいことを伝えておく。	○ 議題に対し、積極的に話合い活動に参加しようとしているか。 (発言)
2 司会グループの紹介		
3 議題の確認	○ 話合いの目的を学級の生徒全員に伝えるために、司会が話合い委員会の中で話し合われた内容を補足しながら説明できるように助言しておく。	
4 提案理由の説明		
5 めあての確認	○ 現在の学校生活の様子から最上級生になるために何が必要かを考えさせる。	
6 個人で学級の行動目標を考える。		
7 話合うこと		

<p>柱1</p> <p>個人の意見を班で持ち寄り、班で一つの行動目標を決める。</p>	<p>○ 話合いの軸がずれないように話合いのポイントを再確認させる。</p> <p>○ 班で意見交流が円滑に進むように机間指導を行いながら適宜、指導・助言を行う。</p> <p style="text-align: right;">【共感的人間関係】</p>	<p>○ 他の生徒の意見を尊重しながら、考え、判断することができたか。</p> <p style="text-align: right;">(学級会プリント)</p>
<p>柱2</p> <p>班からでた行動目標について具体的に話合っていていき、一つの行動目標を決定する。</p>	<p>○ 話合った結果を班の代表者に発表させ、理由を説明させる。</p> <p>○ 他人の意見の良さを生かしたり共感したりしながら、折り合いをつけていく話合いとなるように助言する。</p> <p style="text-align: right;">【自己存在感】</p>	<p>○ 話合い活動の仕方や折り合いのつけ方を理解していたか。(発言)</p>
<p>8 決まったことの発表</p>	<p>○ 集団決定をさせるために、シールアンケート法を用いて合意形成を図らせる。</p> <p style="text-align: right;">【自己決定】</p>	
<p>9 先生の話</p>	<p>○ 話合いの流れを方向づけた発言や話合い委員会の活動を称賛するとともに、次回からの実践への意欲をもたせる。</p>	

8 研究の成果と課題

(1) 成果

- 生徒指導の機能を生かした話合い活動を取り入れたことで、お互いの意見を尊重し合い、認め合う姿が見られた。
- 生徒主体の話合い活動を取り入れたことにより、班での意見交流で、日頃なかなか発言できない生徒が、活発に意見を述べる姿が見られ、学級活動における積極性が高まった。
- 日常生活での行動目標を生徒が共有し、教室に掲示したことにより、日常の学校生活の中での意識が高まり、授業中の態度や清掃活動に改善が見られた。

(2) 課題

- 生徒による検証改善サイクルを確立させる必要があり、生活の区切りや学期ごとにその達成度を評価するとともに、修正を加える活動を行う必要がある。
- 生徒主体で話合い活動を実践していくためには、日常的に「朝の会」「帰りの会」の工夫を行っていく必要がある。

(例)・役割体験による自己存在感を高める当番制の司会

- ・表現力やコミュニケーション能力の向上を図る「1分間スピーチ」等
- 特別活動だけでなく、各教科にわたり話し合い活動を取り入れた授業改善を行い、学校全体として生徒の資質向上に取り組む必要がある。

【参考文献】

- 「中学校学習指導要領解説 特別活動編」(文部科学省)平成29年7月
- 「学級・学校文化を創る特別活動 中学校編」
(文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター)平成26年6月
- 「学級・学校文化を創る特別活動 中学校編」
(文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター)平成28年3月